

平成28年度 文書館評価

評価項目1 文書館の利用 県民の共有財産である文書館の収蔵資料の利用、活用を図ります。

測定項目	過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B/A	目標値の設定理由 達成状況分析	28年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	25年度	26年度	27年度						
1 登録者数	1,905	1,931	2,061	2,100	2,223	105.9%	<p>各項目とも27年度実績を参考に目標値としました。参考指標にも目標値を設定しました。</p> <p>27年度については特殊事情(他館における共催展示の開催)があり利用者数が急増しましたが、28年度もなお、27年度の利用者数をベースに目標値を定めました。</p> <p>ホームページアクセス数は、対前年度比約10%増を目指します。</p> <p>利用点数、登録者数が過去10年で最高を達成することができました。</p> <p>閲覧者数及び検索システムアクセス数は目標値には及ばなかったものの、過去5年で2番目となる実績となりました。</p> <p>レファレンス件数が27年度に引き続いて減少しています。検索システムやホームページによるレファレンス機能の発揮という面もありますが、「頼られる文書館」として件数の増加に努める必要もあります。</p>	<p>引き続き、魅力ある展示、講座を設けるとともに、彩の国だより、県ホームページのイベントカレンダー、スマートフォンアプリ(まいたま)などの県の広報媒体をはじめ、地域FM放送やミニコミ誌など、多様な手段を用いて積極的な情報提供を行いました。</p> <p>館の活動などをタイムリーにお知らせできるようホームページの充実を図りました。とくに、事業等の様子を紹介するページ「もんじろうかわら版」の更新に力を入れるとともに、収蔵資料検索システムの改修を行いました。</p> <p>講座、研修会参加者に対して、文書館利用申請書を配布するなど、閲覧者以外の方や県職員にも積極的に文書館をPRしました。</p> <p>展示からも関心をもってもらえるよう、展示解説を始めました。県職員が仕事の合間に県の歴史を学べるよう、昼休み時間にも開催しました。</p>	<p>29～30年度は大規模改修工事にとともに、臨時休館及び仮事務所での暫定開館となるため、利用サービスの停止(臨時休館中)ないし限定(暫定開館中)をせざるをえません。このため、利用者の方々に混乱のないよう周知に努めるとともに、円滑な利用サービスに努める必要があります。</p> <p>28年度の利用レベルが2年後のリニューアル・オープンに際して低下することなく、さらに増加を図るための活動が29～30年度には必要となります。具体的には、アウトリーチ手法による普及事業、ホームページ等での魅力発信、リニューアル・オープン時の公開資料拡大のための資料整理等に努める必要があります。</p>
2 閲覧者数	4,006	4,190	4,629	4,700	4,532	96.4%			
3 利用点数	34,606	34,086	35,587	35,600	42,263	118.7%			
4 レファレンス件数	1,293	1,056	670	700	223	31.9%			
5 検索システムアクセス件数	77,382	77,750	100,912	101,000	95,419	94.5%			
参考) 利用者数	18,322	17,929	20,169	20,169	16,936	84.0%			
参考) ホームページアクセス数	40,363	75,102	105,185	115,000	89,085	77.5%			

評価項目2 行政文書の公開 歴史的・文化的に価値ある行政文書を収集・整理し公開することにより、県政の記憶装置として県民の要望に応えます。

測定項目	過年度実績 (公開累積数で表示)			目標値A	実績値B	達成率 B/A	目標値の設定理由 達成状況分析	28年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	25年度	26年度	27年度						
行政文書の公開点数	152,331	160,985	170,186	175,186	177,940	101.6%	<p>新たに収蔵する文書の整理や既収蔵文書の見直しを行い、5,000点の新規公開を目標としました。</p> <p>行政文書の新規公開点数は7,754点でした。</p> <p>完結後10年を経過した文書及び歴史的資料の移管手続きが進んだこと並びに完結後30年又は50年後に公開を予定して収集した歴史的資料に係る利用協議も進んだことによりです。</p>	<p>不開示情報記載のため非公開とされている歴史的資料について、完結後30年又は50年後の定期的な見直しにより、利用制限の理由に該当しなくなったと判断できた場合は利用協議を行い、公開の促進を図りました。</p> <p>研修や庁内広報等により県職員の公文書に対する意識啓発を図りました。</p>	<p>29～30年度は新たに収集する文書の保管場所が限られるため、管理委任文書の受入を取りやめざるをえません。2年後のリニューアル・オープン後に、受入を止めていた管理委任文書をどのように受け入れていくか、今後、検討する必要があります。</p> <p>歴史的資料については散逸を防ぐため、保管場所を工夫しながら引き続き収集に努める必要があります。</p>

評価項目3 古文書の公開 埼玉県に関する歴史的・文化的に価値ある古文書の整理・公開を促進して県民共有の財産とし、県民の要望に応えます。

測定項目	過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B/A	目標値の設定理由 達成状況分析	28年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	25年度	26年度	27年度						
古文書の公開点数	401,417	411,692	421,617	429,617	428,866	99.8%	<p>未整理分古文書の整理と目録公開(8000点)を目指しました。</p> <p>黒田(小)家だけでなく、追加で収蔵された諸家(小室・足立・稲生)の目録も整理・公開することができ、ほぼ目標値を達成できました。</p> <p>小室家文書は、平成28年度末に県指定文化財に指定されたこともあり、指定に合わせた公開が可能となりました。</p>	<p>未整理文書を計画的に整理し、目録公開作業を推進しました。</p> <p>文書群の全体像を示すため、すでに刊行されている古文書目録のうち、目録に収録されずに一部未整理として残っている文書の整理を進めました。</p> <p>次年度以降の目録に収録する未整理文書について計画を立案しました。</p>	<p>平成29～30年度は、大規模改修により休館となり、古文書を外部保管庫に移転し整理作業が困難となるため、これに応じた取組を図る必要があります。</p> <p>すでに収蔵された古文書だけでなく、民間所在の古文書の保存を図ることも重要であるため、その所在管理情報等について、市町村と連携をとりながら把握し、県全体の地域史料の保全に取り組む必要があります。</p>
報道写真の公開点数	58,100	76,363	107,417	141,417	136,786	96.7%	<p>28年度は新たに昭和43年1月～昭和44年12月分34,000点の公開を目指しました。</p> <p>計画通りに順調に作業を進めることができ、ほぼ目標値を達成することができました。</p>	<p>埼玉新聞社から寄贈を受けた、同社撮影の戦後報道写真の整理を順次進めました。</p>	<p>平成29～30年度は、大規模改修により原版ネガフィルムや紙焼き資料を館外の保管庫に移設するため整理作業が困難となりますが、そのなかでも順次整理とデジタル化を進める必要があります。</p> <p>大規模改修工事では原版となるネガフィルムの適切な保存環境の整備について取り組めます。</p>

評価項目4 地図資料の公開 埼玉県に関わる地図資料を収集して、整理、公開を進め県民共有の財産として公開します。

測定項目	過年度実績 (公開累積数で表示)			目標値A	実績値B	達成率 B/A	目標値の設定理由 達成状況分析	28年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	25年度	26年度	27年度						
地図資料の公開点数	73,616	74,917	76,929	78,000	77,966	100.0%	<p>新たに収蔵する地図の整理や見直しを行い、約1,000点の新規公開を目標としました。</p> <p>地図の新規公開点数は1,037点で、ほぼ目標値を達成することができました。</p>	<p>県作成地図は、紙地図・電子地図の発行状況を把握し、収集資料の確保に努めました。</p> <p>市町村の協力を得て、市町村作成地図の収集に努めました。</p> <p>保管スペースの確保という点を念頭に、未整理の地図の整理を行いました。</p>	<p>大規模改修工事以降は、新たに収集する地図の保管場所が制限されるため、県庁各課・市町村に対する収集依頼時期を例年より前倒しする等の工夫をする必要があります。</p> <p>2年後のリニューアル・オープン時に円滑に地図センターが開館できるように、臨時休館以降、収蔵資料の整理を行う必要があります。</p>

評価項目5 史料叢書の刊行及び県史編さん資料の整理公開 郷土埼玉に関する貴重な史料を刊行するとともに県史編さん資料を整理し公開します。

測定項目	過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B / A	目標値の設定理由 達成状況分析	28年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	25年度	26年度	27年度	28年度					
1 史料叢書の刊行	埼玉県史料叢書12中世新出重要史料二	第17巻埼玉県布達集一	第18巻埼玉県布達集二	第19巻埼玉県布達集三	第19巻埼玉県布達集三	100%	埼玉県史料叢書19「埼玉県布達集三」を刊行を目標としました。 計画的に編集・校正作業を進めることにより、埼玉県史料叢書第19「埼玉県布達集三」を刊行することができました。	既存の刊行計画に基づき「埼玉県史料叢書」の刊行を進めました。 将来的な編さん事業については、編集企画委員会を2回開催し、有識者から意見をいただきました。また、次期刊行計画等を検討しました。	平成29～30年度にかけて大規模改修工事にもない編集作業が制約を受けますが、28年度に検討した刊行計画にもとづき、「埼玉県史料叢書」にかかる調査と刊行を進めます。 大規模改修工事により県史編さん資料の整理作業が困難となりますが、この間にデジタル化が終了した資料の公開手続きに取り組みます。
2 県史編さん資料(写真資料等)の公開点数(公開累積数で表示)	13,761	15,761	18,479	20,000	21,507	107.5%	県史編さん資料(写真資料等)の整理と公開準備を進め、累計20,000点以上としました。 作業の効率化を図ることにより、目標値を約1500点超える点数のデジタル化を達成することができました。		

評価項目6 収蔵資料の保存 県民共有の財産である古文書・行政文書などの資料を後世に伝えていくため、良好な状態で保存し、収蔵資料の劣化を防止します。

測定項目	過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B / A	目標値の設定理由 達成状況分析	28年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	25年度	26年度	27年度	28年度					
1 古文書：修復(枚)	134	114	116	150	114	76.0%	古文書の修復・複写本の作成・古文書のマイクロフィルム化は前年とほぼ同じ目標値としました。 彩の国デジタルスキップステーションにおける埼玉新聞社撮影戦後報道写真のデジタル画像の公開を計画的に実施し、28年度は30点のデジタル画像の追加提供・公開を目標としました。	古文書の修復をすることにより閲覧できる状態にし、利用者の利便性を図りました。 埼玉新聞社撮影戦後報道写真のデジタル画像データを彩の国デジタルスキップステーションへ提供し、同所で公開しました。	平成29～30年度にかけて当館の大規模改修が行われるため、館内での修復作業と古文書のマイクロフィルム化は不可能となります。このため、修復作業を館外で実施する可能性も検討する必要があります。 埼玉新聞社撮影戦後報道写真以外の古文書デジタル画像についても、彩の国デジタルスキップステーションと協議しながら提供するとともに、当館のホームページでも古文書講座のテキストを中心に公開する準備を進めます。
2 古文書：報道写真デジタル化(点)	736(累計)	766(累計)	796(累計)	826	826	100.0%	修復については、古文書修復ボランティアの高齢化もあり、目標値には届きませんでした。前年、前々年の実績を維持することができました。 報道写真のデジタル画像公開については、彩の国デジタルスキップステーションとの連携を図ることにより、目標値を達成しました。		
3 行政文書：重要文化財指定文書の複製化(冊)(コマ)	235(99,638コマ)	190(77,654コマ)	151(71,202コマ)	140(54,000コマ)	127(53,958コマ)	99.9%	複製化予算の変動を反映させた目標値としました。 限られた予算の範囲内で、撮影コマ数、原本簿冊ともにできる限りの増加を目指しました。 複製化については、重要文化財を取り扱える業者が少なく、新規の入札参加業者を開拓し、契約に競争性を持たせるように努めたものの、取扱コマ数が目標値に若干、届きませんでした。	電子データに変換し、閲覧利用に供することにより、原本の利用を制限し、保存と利用の調整を図りました。	重要文化財指定文書については、経年劣化等により傷みが激しい文書もあり、複製化の対応が難しいものもあるため、これらについては、従来の複製化にあわせてマイクロ撮影に耐えうる範囲の修理を実施する必要があります。

評価項目7 文書館の普及、連携、協力活動 行政文書・古文書・地図等の収蔵資料を活用した講座・講習会及び子ども体験事業を通じて、県民の学習意欲と理解を深め、文書館の利用を促します

測定項目		過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B/A	目標値の設定理由 達成状況分析	28年度の取組	次年度以降に向けた改善点
		25年度	26年度	27年度	28年度					
1 講座、普及事業	回数	32	32	32	32	32	100.0%	<p>各種事業の回数や参加募集人数については、昨年度実績並の目標値としました。</p> <p>修復ボランティアの活動回数は昨年度と同じですが、ボランティアとしての登録者数が減少しているため、延人数については実態に合わせて設定しました。</p>	<p>彩の国だよりをはじめ、県教委だより、教育さいたまマガジン等への掲載を進め、積極的に広報活動を行いました。</p> <p>普及・連携事業の実施に当たっては常に前年度の反省を踏まえた改善に努め、参加者の満足度を高めるよう努めました。</p>	<p>平成29～30年度は、大規模改修工事により館内の講座室が使用不能となるため、この期間の講座・普及事業については、外部の公民館や博物館・図書館等と共催で実施するなどの対応を図ることにより、サービス水準の維持を検討します。</p>
	人数	1,473	1,313	1,293	1,400	1,310	93.6%			
2 学校との連携事業	回数	40	40	45	45	50	111.1%	<p>学校連携では、人数では受入学校の児童数によって異動が出てしまうため目標の約95%にとどまりましたが、回数では目標を1割こえることができました。</p> <p>修復ボランティアは、2回の館外視察研修会を実施するなど、参加者の意欲の向上をはかる取組みを行いました。その結果、予定回数はもとより延人数も目標をクリアし、27年度からの回復を図ることができました。</p>	<p>教員の資質向上や児童生徒の学力向上のため、教員向けの研修会や学校への講師派遣活動など学校連携の強化に努めました。</p> <p>ボランティアの作業量を確保し、募集に力を入れて事業の活性化を図りました。</p>	<p>古文書修復ボランティアについても、館内の作業場所使用が困難なため、外部に作業場を借りて作業を行うほか、資質向上に向けた研修会を引き続き実施します。</p>
	人数	803	1,156	1,323	1,323	1,255	94.9%			
3 ボランティア活動 古文書補修	回数	40	39	40	40	40	100.0%	<p>子供事業ボランティアは登録者数自体が減少したため、活動機会の提供回数は当初目標を達成しましたが、延人数の達成率が低いものとなってしまいました。</p>		
	延人数	376	340	221	270	276	102.2%			
4 ボランティア活動 子供事業	回数	12	12	12	12	13	108.3%			
	延人数	48	63	105	78	35	44.9%			

評価項目8 展示 収蔵資料を利用・活用してもらおう導入部分として常設展示、コーナー展示をそれぞれ開催します。

測定項目		過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B/A	目標値の設定理由 達成状況分析	28年度の取組	次年度以降に向けた改善点
		25年度	26年度	27年度	28年度					
年間観覧者数(人)		10,135	8,755	10,283	10,283	7,216	70.2%	<p>目標値は、前年度の観覧者数を確保することを目指して決めました。</p> <p>外務省外交史料館との共催特別展示があった25年度、館外会場で共催展のあった27年度なみに目標値を高く設定しましたが及びませんでした。</p> <p>展示資料の所蔵者が各展覧会の会期中に来館されるなど、所蔵者や地域への意識啓発や関心向上の効果を得ることができました。</p> <p>県職員も仕事の合間に県の歴史や資料に関心を持っていただけよう、昼休みを中心に新たに実施した展示解説も好評でした。</p>	<p>彩の国だよりをはじめ、県教委だより、教育さいたまマガジン等への掲載を進め、積極的に広報活動を行いました。</p> <p>展示事業のPRのため、展示内容にリンクしたイベントの開催に努めました。</p> <p>県政記者クラブ加盟社等に積極的に情報提供を行い、誘客を進めました。</p>	<p>平成29年～30年度は、大規模改修工事により、当館の展示室も閉鎖されることから、歴史と民俗の博物館と連携し、年間を通じて共催の展示を開催します。</p>